

学園祭協賛行事 フォーラム 学生と図書館

「和の心とは：日本の伝統スポーツにおける着物」

昨年11月2日（火）に本学図書館で学園祭協賛行事の一環として、フォーラム「学生と図書館「和の心とは：日本の伝統スポーツにおける着物」」を本学図書館第2閲覧室で開催いたしました。その時の基調講演と4組の発表の要旨をもとに図書館フォーラムを振り返ります。

＜基調講演＞

「和の心とは」



村岡 孝之 氏
(本学点検評価調査室)
(剣道錬士六段)

日本の文化では、「結ぶ」という事が一番大事なことであると思います。「結ぶ」には、人と人とが手を結ぶ、絆を深く結ぶなどや国同士が協定を結ぶなどいろいろな意味があります。いずれも人と人をくっつけるということで理解されています。

例えば紐結びには、いろいろな結び方があり、右が上、左が下というのが基本です。また紅白の水引は、紅の紐が右にきています。剣道などの試合の主審も本部席に向かって立ち、右手に赤い旗、左手に白い旗を持っています。つまり日本文化では、右が上という考え方方が根本にあります。逆に左というと亡くなつた人の着物は左前だったり、会社などでどこかに飛ばされるという意味で使われる左遷など悪い意味に使われています。(中略)

お茶室などにみられる結界は、向こうの世界とこちらの世界を結ぶという意味があります。普通違う世界なので分け隔てるという考え方もでてきますが、全く違う世界を結ぶというところにお互いが手を取り合う場であると解釈している日本人特有の文化があると思います。(中略)

最後に国際化ですが、本来言葉だけでは何も使い物になりません。その国の事情、すなわち文化を理解して相手の国の人とお話をすることができます。海外に行くと必ず自分の国について聞かれます。また日本に来ている留学生の方々は、みな自分の国を聞かれてもしっかりと紹介できる人が多いです。そのために日本文化に触れるということがとても大事です。本日発表していただく学生さんの皆さん、日本の伝統スポーツである柔道や合氣道などをされていますので、外国に留学などで行く機会があるとその話ができると思います。これからもいろんな日本文化に触れていただき、時にどうしてこうなっているんだと疑問に思ったことは自分で調べたり、周りの人に聞いたりして知識を深めていただければと思います。

